

VI章 小学校における少林寺拳法授業

1. 対象者の特徴

中学校において、すでに少林寺拳法授業が実施されているが、当連盟は授業参加者を「少林寺拳法体験者」と位置づけ、本格的に修行したい方に対しては、当連盟の支部を通じて正式に入会されるよう案内している。

小学校において少林寺拳法授業を実施する場合についても同様の考え方でいるので、本章における授業対象者は「少林寺拳法体験者」という認識で書き進めていく。

さて、授業で少林寺拳法に接する場合、生徒の姿勢は消極的であることもあり得る。そのため、道場での安全配慮に加えて、修練の意味合いの説明や動機づけには工夫をする必要がある。また、小学生が対象なので、時にユーモアも交えながら、時に（安全管理上）の注意喚起を強調しつつというふうに、緩急をつけた現場運営が求められる。よって、授業を担当する指導者は、高い指導力や資質が求められると考えている。

教員が授業を担当する場合は、すでに生徒との間に一定以上の人間関係ができていると思うが、外部指導者として授業を担当する場合には関係づくりから始まると思われるので、その点の違いにもよく注意する必要がある。



2. 発育「身体の大きさ（量）」・発達「身体の機能（質）」の段階を踏まえた指導の充実と配慮

小学校の体育領域では、体づくり運動として、以下の構成がある。

各段階のねらいが達成されるためには、各段階に応じた指導の充実と配慮が必要となる。

低学年では、他教科等との関連を積極的に図り、指導の効果を高めるようにするとともに、幼稚園教育要領等に示す幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(※)との関連を考慮する必要がある。特に第1学年入学当初は、幼児教育から小学校教育へと円滑に移行することが望ましく、身近な社会や自然との関わりから生活に必要な習慣や技能を身につけることをねらいとする生活科を中心とした関連的な指導を行うなどの工夫が必要であるため、外部指導者は、教員と生徒の実態を共有し合い、連携して活動に取り組む必要がある。

中学年では、第二次認知革命と呼ばれるこの時期に、メタ認知（理解する・考えるといった自分の認知能力を客観的に認知する能力）を高め、自己調節力を育む「振り返り」も含めることや、自己肯定感を大切にすることとともに、他者の尊重の意識や他者への思いやりなどを育む二人組やグループ活動が求められる。

高学年では、身体が大きく成長し、自分と対象との間に距離をおいた客観的分析ができるようになることによって、自己肯定感が育っていきやすい時期であることを理解する必要がある。その反面、発育・発達の個人差も大きく見られるため、自尊心の低下などにより劣等感を持ちやすくなる時期でもあることや、集団の規則を理解して、



低学年		中学年		高学年
運動遊び 体づくりの	体ほぐしの運動	体づくり運動	体ほぐしの運動	
	多様な動きをつくる運動遊び		多様な動きをつくる運動	体の動きを高める運動

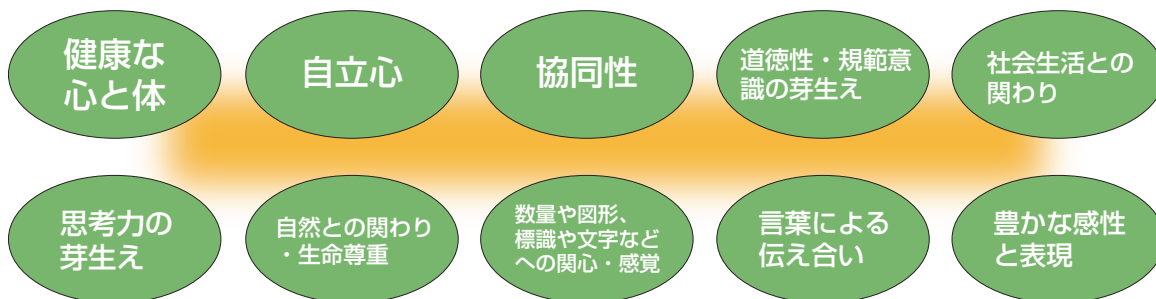
参考：【体育編】小学校学習指導要領（平成29年告示）解説

集団活動に主体的に関与したり、遊びなどでは自分たちで決まりを作り、ルールを守るようになる、閉鎖的な子どもの仲間集団（ギャングエイジともいわれる）が発生する時期でもあるため、自分の意見を持ちづらく、他人の言動に同調しやすい行動が見られることもあるといわれる。

以上の各段階を踏まえ、教員と外部指導者が発育・発達を支援する協力関係を築く必要があり、少林寺拳法の特徴がグループ活動に生かされれば、小学校の教育の目的・目標が達成されることに貢献できると考える。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」

○ 5領域のねらい及び内容に基づく活動全体を通して資質・能力が育まれている幼児の幼稚園修了時の具体的な姿であり、教師が指導を行う際に考慮するものである



(※) 参考：文部科学省新幼稚園教育要領のポイント



3. 評価規準

授業を実施する場合の評価基準を下表に記載している。実施内容を通じて、ねらいに至ることを目指す。

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
<p>○次の運動の楽しさや喜びに触れ、その技能を身につけることができる。</p> <p>【低】 (ア)少林寺拳法の礼法、座り方、立ち方ができる。 (イ)基本動作（開足中段構えから）の突き・蹴り、体捌き・足捌きができる。</p> <p>【中】 (ア)相対での受け、体捌き・足捌き、突き・蹴りができる。 (イ)相対での基本となる技「上受蹴」ができる。 (ウ)鉤手守法を用いて基本となる技「小手抜」ができる。</p> <p>【高】 (ア)相対での基本となる技「内受突」ができる。 (イ)単演基本法形の義和拳第一系ができる。 (ウ)相対での義和拳第一系ができる。鉤手守法を用いて基本となる技「小手抜」ができる。</p>	<p>○自己の体の状態や体力に応じて運動の行い方を工夫できるようにする。</p>	<p>○運動に進んで取り組み、助け合って運動したり安全に気を配ったりすることができるようにする。</p>

学 年	時数	ねらい
低学年	3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 少林寺拳法を用いて、体を動かすことが気持ち良いことに気づき、友達と一緒に体を使って楽しく運動できる行い方を選ぶことができる。 ・ 多様な動きをつくる運動遊びの行い方を知り、友達の良い動きを見つけることができる。 ・ 礼儀や信頼の意味がわかり自発的に実践できる。 ・ 護身の心がまえを持つことができる。
中学年	5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体の動きを高める運動（巧みな動き）に繋がる、正中線を意識した運動ができる。 ・ 少林寺拳法を用いて、バランスを取りながら移動するなど、2つ以上の動きを同時に行ったり、連続して行ったりする運動を通して、基本的な動きの組み合わせた動きを身につけることができるようにする。 ・ 多様な動きをつくる運動遊びの行い方を知り、友達の良い動きを見つけることができる。
高学年	6	<ul style="list-style-type: none"> ・ 正中線を意識した体の動きを高める運動（巧みな動き）ができる。 ・ 少林寺拳法を用いて自己の体重や重心を利用したり、人や物など抵抗に対して、それを動かしたりすることによって力強い動きを高める。 ・ 体の動かす楽しさや心地よさを知り、自分や仲間の体の状態に気づき体の調子を整えたり、仲間と交流したりすることができる。

4. 学習指導計画例（小学校5・6年／5時間）

次	時	主たる学習活動・内容	評価の観点				評価（評価の方法）
			知	技	思	主	
一	1・2	①単元目標・本時目標確認。 ②本時の流れ確認。 ③礼法・作法の練習。 ④音楽のリズムに合わせて突き・蹴り・受け・内受突の練習をする。 ⑤講話「あなたは大切なものを守れるか（武の本質の応用）」を聞き、礼儀や信頼を理解する。 ⑥相対になって攻撃をかわす練習。 ⑦相対になって攻撃に触れる練習。 ⑧相対になって内受突を練習する。（号令） ⑨振り返り。 ⑩次回予告。				○	・講話を聞いて日常生活にどう生かすかを記入する。（Gフォームで小テスト【主体的・学習の調整力】） ・相対の攻防のポイントをキーワードで答える。（Gフォームで小テスト【知識】）
二	3・4	①単元目標・本時目標確認。 ②本時の流れ確認。 ③礼法・作法の練習。 ④音楽のリズムに合わせて突き・蹴り・受け・義和拳第一系の練習をする。 ⑤相対になって攻撃をかわす練習。 ⑥相対になって攻撃に触れる練習。 ⑦相対になって義和拳第一系をする。（号令） ⑧講話「武道を学ぶのはなぜ（自他共楽・組手主体の応用）」を聞き、護身の心がまえを理解する。 ⑨振り返り。 ⑩次回予告。	○	○		○	・結手立、合掌礼の方法をポイントごとに記入する。（Gフォームで小テスト【伝統的な行動の仕方を守ろうとする。】） ・相対の攻防のポイントをキーワードで答える。（Gフォームで小テスト【知識・技能】） ・講話を聞いて日常生活にどう生かすかを記入する。（Gフォームで小テスト【思考・判断・表現 主体的・学習の調整力】）
三	5・6	①単元目標・本時目標確認。 ②本時の流れ確認。 ③礼法・作法の練習。 ④音楽のリズムに合わせて小手抜の練習をする。 ⑤相対になって鉤手守法あそび。 ⑥相対になって小手抜を練習する。（号令） ⑦グループになって演武の練習をする。演武撮影・保存、自己の演武と示範演武動画を見比べ課題発見・解決・練習の工夫をグループワークで行う。 ⑧振り返り。 ⑨次回予告。	○	○		○	・鉤手守法のポイントをキーワードで答える。（Gフォームで小テスト【知識・技能】） ・課題を見つけ、解決に向けてどのような工夫をしたか記入する。（Gフォームで小テスト【思考・判断・表現 主体的】）

5. 学習指導計画例（小学校5・6年／2時間）

2時間の中で何を教えるか、内容を精選する。礼法・基本動作・技を通して少林寺拳法の特徴を理解し、武道の楽しさを体感するとともに、武道の精神が日常生活にも生かせるようにする。多くは教えず、生徒の達成感が得られるよう工夫する。

次	時	主たる学習活動・内容	評価の観点				評価（評価の方法）
			知	技	思	主	
一	1	①単元目標・本時目標確認。 ・少林寺拳法について。 本時の流れ確認。 ②礼法・作法の練習。 ・個人→二人組で結手・合掌令・着座・安座を練習。 ③基本（突き・蹴り）の練習。 ・腕の力を抜き正中軸回転あそび。 ・ゆっくりから最速までの正中軸回転あそび。 ・左右の体重移動で正中軸回転あそび。 ・号令に合わせて突きの練習。 ・ミット（または掌）に対して突きの練習。（号令） ④相対になって攻撃をかわす練習。（号令） ⑤相対になって攻撃に触れる練習。（号令） ⑥相対になって内受けの練習。（号令） ⑦相対になって内受突を練習。（号令） ⑧講話「武道の意義（争いを止める）」を聞き、礼儀や信頼を理解する。 ⑨振り返り。 ⑩次回予告。	○	○			・少林寺拳法について理解できているか発問に答える。【知識】 ・ポイントを理解して練習できているか。【知識・技能】 ・安全を理解して練習できているか。【知識・技能】 ・協力して練習できているか。【主体的に取り組む態度】 ・講話を聞いて日常生活にどのように生かすかを記入する。【思考・判断・表現】
二	2	⑩単元目標・本時目標確認。 ⑪本時の流れ確認。 ⑫礼法・作法・基本動作の確認。 ⑬抜き技の練習。 ・小手抜 二人組→グループ ⑭講話「組手主体（協調性の大切さ）」を聞き、護身の心がまえを理解する。 ⑮振り返り。	○	○			・前時の内容が理解できているか発問に答える。【知識・技能】 ・ポイントを理解して練習できているか。【知識・技能】 ・協力して練習できているか。【主体的に取り組む態度】 ・講話を聞いて日常生活にどのように生かすかを記入する。【思考・判断・表現】